

伊丹市昆虫館友の会の活動報告

伊丹市昆虫館友の会（井上治彦、藻川芳彦）

【はじめに】

伊丹市昆虫館友の会は、昆虫館を積極的に利用して自然と親しみ、学習しようとする人々によって組織され、会員相互の親睦を深め、昆虫館と連携しつつ、自然科学の発展に寄与するべく（友の会規約第3条）、2004年（平成16年）1月1日に発足した団体です。会計年度は1月1日に始まり12月31日に終わり（友の会規約第11条）ますので、年間の活動も会計年度に合わせています。

具体的には、1月の総会で、前年度決算と今年度予算を審議・承認し、前年度の事業報告と今年度の活動計画提案を行い、年間の活動のスタートとします。その後は、年間7回の役員会（運営委員会）を開き、現在は24名の役員で（運営への関わり方は千差万別ですが）会の運営を行っています。現在の会員数は413名となっています。また、2014年1月の総会は、創立10周年の記念総会として盛大に開催しました。

当会は、老若男女、初心者からプロ級の人まで、多種多様です。みんながそれぞれのレベルで楽しんでおり、とにかく、アットホームで会の雰囲気が素晴らしいのが自慢です。

【2015年の活動内容】

1. 自然観察ハイキング・ミニハイキング事業

身近な野山や公園等に出かけ、自然観察を行い、会員相互の交流を図った。

- ①香櫨園浜ハイキング：5/17
- ②甲山森林公園ハイキング：6/7
- ③きずきの森でライトトラップ：7/25
- ④伊丹市内縦断ハイキング：9/12
- ⑤鶴殿のヨシ原：10/12

2. 研修事業

昆虫等のことを詳しく調べ、整理したい会員のための研修等を行った。

- ①会員の研究成果の展示・発表：1/12
- ②封入標本づくり：3/14・4/4
- ③昆虫標本の作り方講座：7/18
- ④きしわだ自然資料館見学：12/12

3. 広報事業

会員間の情報交換、友の会の活動報告や行事の案内等を行った。

- ①友の会ニュース第24号の発行：2月
- ②友の会ニュース第25号の発行：10月
- ③活動案内の発行：5月

4. 調査・観察事業

会員と昆虫館スタッフが協力して生き物の調査と参加者間の交流を行った。

- ①昆陽池公園カブトムシのすみかづくり：3/21
- ②春の昆陽池いきものしらべ：雨天中止
- ③いたこん合宿（於；びわ湖バレイ）：7/31～8/2
- ④コウモリ観察会：8/22
- ⑤昆陽池ビオトープ水ぬき調査：10/24

5. 他事業への出展参加、その他

友の会の活動をアピールし、他の組織との交流を図った。

- ①友の会総会・交流会、講演会の開催：1/12
- ②猪名川クリーン作戦への参加：2/7
- ③昆虫館夏期特別展期間中に友の会が出展（オリジナルキーホルダー販売）：8/15、22
- ④大阪バードフェスティバル（於：大阪市立自然史博物館）に出展：11/14-15
- ⑤昆虫館事業（講座・観察会等）に役員や会員が運営スタッフとして参加
- ⑥「鳴く虫と郷町」スズムシ等の里親プロジェクト等への協力
- ⑦いたこんくらの活動支援：運営委員会

【特徴のある活動】

1. いたこんくらの育成・運営

友の会会員で、より専門的に学習しようとする中学生・高校生を対象に、2008年度に発足させた組織で、第1期のメンバーは、高校生になると大学受験を控え、次世代が入ってこないことと相まって休眠状態となった。その後、第2期のメンバーが自然発生的に出てきた2015年度から活動を再開した。

☆活動のあらまし

- ①前回は、特定の学芸員の負担が大きかったことを受け、このたびは、メンバーの自主的・自立的な活動を促し、友の会役員の一を担当窓口とし、館の職員と友の会役員は、負担にならないように活動をサポートするようにしている。
- ②メンバー8名のうち、6名がグループを作り、昆陽池公園の昆虫相の調査を行っている。
- ③友の会ニュースに、いたこんくらの活動報告コーナーを設け、会員に活動内容を周知してもらうようにしている。
- ④友の会行事等で、いたこんくらのメンバーが小学生以下の初心者の子どもたちに対し、昆虫採集・標本作製等の自然への関わり方のイロハを優しく指導できるように育成していく。その中から、将来の運営役となるメンバーを発掘する。

2. 友の会役員と館の学芸スタッフとの協働

友の会役員の有志と学芸員有志とでチームを作り、助成金を得て、ガイドブックを二冊（回）作成した。

「昆陽池公園の昆虫観察ガイド春～夏」2011年3月発行（コベルコ自然環境保全基金助成事業）

「昆陽池公園の自然観察ガイド」2013年3月発行（一般財団法人セブンイレブン記念財団助成事業）

☆目的

- ①友の会の力量を高め、学芸員との協働の成果を問うため、有志の役員6名と館の学芸員4名で調査・研究活動を行うこととした。
- ②外部の助成団体の資金を獲得し、冊子（ガイドブック）を作成し、一般市民へ配付し、活用してもらう。また、そのことにより、館と友の会の存在及びその活動の一端を周知する。

☆とりくみ内容（「昆陽池公園の自然観察ガイド」作成時）

- ①助成金申請については、館と友の会からそれぞれ1名ずつ、各種申請業務に慣れたメンバーを窓口（事務局）として業務の円滑化を図った。
- ②助成金交付内定後は、毎月1～2回調査日を設け、資料の集積を行い、発行前の数ヶ月は編集・作成のための会議を毎月数回開催した。
- ③屋外での使用を考慮し、それに耐えうる紙質・印刷品質等を考慮した。
- ④発行に関して、市の広報紙、地域ミニコミ誌等で広報。また、地域放送局（FMいたみ）の取材等で、一般市民の方に作成・配付の周知を図る。
- ⑤希望者には、無償で配付し活用してもらう。（郵送料のみ負担。一人一冊とする）
- ⑥伊丹市内の幼稚園、小学校、中学校の全校園に配付し（一校あたり複数冊）、環境学習等で活用していただく。



市民や学校・園に配付する前には、友の会行事（昆陽池公園での観察会）で使用し、説明役（観察会の案内人）がいなくても十分に活用できることを確認した。



図1. 封入標本づくり



図2. 香櫨園浜自然観察ハイキング



図3. 昆虫標本の作り方講座



図4. きずきの森でライトトラップ

図5. いたこん合宿 (びわ湖バレイ)



図6. 伊丹市内縦断自然観察ハイキング

図7. ビオトープ池の水抜き調査

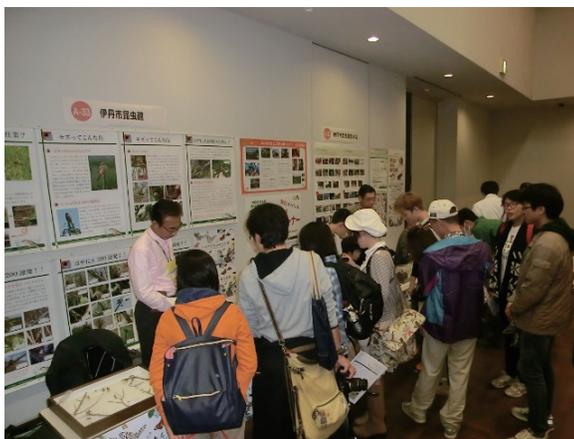


図8. 大阪バードフェスティバル出展